



地域医療連携ニュース

発行：兵庫県立加古川医療センター 〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地 <http://www.kenkako.jp/>
TEL：079-497-7000(代表) TEL：079-497-7011(地域医療連携部直通) FAX：079-438-3756(地域医療連携部直通)

も	看護専門外来のご案内	1	形成外科	5
く	リハビリテーション部	2	総合内科	6
ひ	皮膚科	3	検査部	7
	放射線科・IVR科	4	外来診療表	8

～もっと身近にもっと安心を～ 看護専門外来のご案内

当センター看護部では、「患者さん一人ひとりを大切に、地域の基幹病院として信頼される質の高い看護の提供」を理念に掲げています。

病気とともに生きる方々の生活を支えるべく、入院中のみならず、外来通院中の患者さん・ご家族の支援に力を入れています。その支援の1つに、専門看護師・認定看護師による、専門的な、継続した介入があります。今回は、その活動の一部をご紹介します。

化学療法ケア

- 外来の抗がん薬治療室で、抗がん薬の投与や患者さんやご家族の方の困り事に対し支援しています
- 地域の医療機関の方から直接「CVポートの取り扱い」「抗がん薬治療の曝露対策」について相談を受ける事も可能です



【お問合せ】

当院へお電話頂き、「外来看護師長」をご指定ください

(担当：がん化学療法看護CN)

皮膚・排泄ケア

- ストーマケア（主に当院で造設した患者）褥瘡ケアを行います。局所ケアのみでなく、患者さん・ご家族の生活全般を支えます
- 地域でご活躍されている皆さまともっとお近づきに！褥瘡ケアに関する動画配信や座談会の開催など、「顔の見える関係づくり」を大事にしています

【お問合せ】

当院へお電話頂き、「皮膚・排泄ケア認定看護師」または「外来看護師長」をご指定ください

(担当：皮膚・排泄ケアCN)



フットケア

- 糖尿病やリウマチ性疾患を持つ患者さんを対象にフットケアを実施しています。足の困り事（肥厚爪や巻き爪の爪切り、胼胝処置等）への対処、足病変予防のための具体的なケア方法を提案するだけでなく、慢性疾患とともに生活する中での気付きや生活調整についても話を聴き、気軽に相談ができる場になるよう、努めています



【お問合せ】

当院、外来診療が必要です。診察時に担当医へご相談ください

(担当：慢性CNS)

リンパ浮腫ケア

- がん治療で発生するリンパ浮腫に対し、リンパ浮腫療法士がケアを行っています
- リンパマッサージやスリーブやストッキングの調整だけでなくリンパ浮腫を抱えながら生活している患者さんやご家族を支援しています

【お問合せ】

当院、外来診療が必要です。診察時に担当医へご相談ください

(担当：がん看護CNS)



地域医療の更なる活性化を目指し、皆さま方にとって、「身近な病院」と感じて頂けるよう、丁寧な看護を提供いたします。よろしくお願いいたします。



リハビリテーション部



部長 柳田博美

療法士長 成瀬友貴

特徴

東播磨地域の基幹病院におけるリハビリ部門として、運動器/脳血管/呼吸器/心大血管に対する急性期リハビリを提供しています。術後/発症早期からの介入を目指しています。一方、糖尿病などの生活習慣病や、がん患者等への緩和医療など、急性期以外の疾患にも積極的に取り組んでいます。

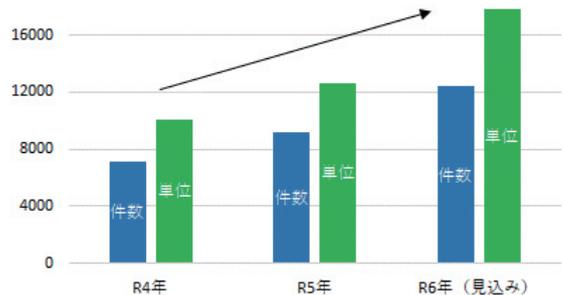
多職種連携とチーム医療

リハビリテーション関連職種では、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)に加えて音楽療法士(MT/2023年～)も仲間入りし、多職種が共存しています。チーム医療が謳われる中、リハビリ部員は担当医や看護師等とのカンファレンス/ラウンド(病棟内)による連携や、種々の委員会等による情報交換・協議(病棟外)など、院内のいたるところでアクティブに活動しています。

トピックス

2023年度より脳神経内科疾患に対するリハビリを開始しております。特に神経難病(パーキンソン病/脊髄小脳変性症)に対する集中的な入院リハビリを、PT/OT/ST/MTの4部門で積極的に取り組んでおります。医師/看護師/地域連携室と協力しながら、退院後の療養生活がスムーズにいくよう支援していきたいと思っております。

脳血管リハ 件数/単位数の推移
(脳外/脳内/救急科)



スタッフ構成

リハビリテーション専従医師が在籍し、スポーツリハビリの提供と共に、生活習慣病に対する知見を生かしながら、スタッフみんなで日常診療や学会発表に取り組んでいます。今後ともよろしくお願い致します。

■スタッフ

Dr 1名

PT 11名

OT 6名

ST 4名

MT 1名

(産休/育休/非常勤含む)





皮膚科



皮膚科部長 川田 裕味子

皮膚科の基幹病院としての役割を果たしていきたいと、日々診療にあたっています。

当科の特徴

- アレルギー疾患、薬疹、水疱症など自己免疫疾患、脱毛症・アトピー性皮膚炎・乾癬などの炎症性疾患、皮膚感染症、皮膚腫瘍、と多岐にわたる皮膚疾患に対応しております。
- 東播磨のみならず播磨地域全域より、皮膚科だけではなく内科や歯科など他科からも、非常に多くの患者さんのご紹介をいただいております。
- 入院治療も積極的に行っています。
- 皮膚科は診断学と言われています。皮膚病理をはじめとして、治療の前提となる診断にも力を入れています。

当科からのお知らせ

近年、乾癬・アトピー性皮膚炎・円形脱毛症などの皮膚疾患の病態解明が進み、生物学的製剤をはじめとする治療効果の高い分子標的薬が数多く登場しました。それにより、難治性・慢性の皮膚疾患の治療が飛躍的に進歩しました。長年改善がなく治療をあきらめていた難治性の乾癬やアトピー性皮膚炎や円形脱毛症の患者さんにとって、希望をもって治療に臨んでいただける時代になってきました。当科は、積極的に新規治療を導入し、対応しております。しかし、これらの治療は高額なものが多いため、従来からの治療も選択肢に入れ、個々の患者さんの背景を考えた最適な治療を提供できるよう努めております。

スタッフ

川田 裕味子	皮膚科部長	平成16年卒
山田 はるひ	皮膚科医長	平成28年卒
廣田 一貴	皮膚科専攻医	令和2年卒
永松 直樹	皮膚科専攻医	令和3年卒
小猿 幸希子	皮膚科専攻医	令和4年卒





放射線科・IVR科



副院長兼放射線科・IVR部長・緩和ケア内科部長 **酒井 英郎**

2024年度も常勤放射線診断医2名と常勤放射線治療医1名、非常勤放射線診断医1名と非常勤放射線治療医3名で放射線治療業務全般に取り組んでいます。

放射線診断部門では、256列デュアルエネルギーCT、80列マルチスライスCTや1.5テスラMRI、3テスラMRI、核医学SPECT装置など最新の放射線機器が導入されています。IVR（Interventional Radiology：放射線機器を用いた低侵襲治療）に関しては、本年度に機器更新があり従来の16列IVR-CTから80列IVR-CTに変更がありました。これによる高速化や再構成画像の構築により、いままで以上に高精細で緻密な治療が可能となりました。これらの機器を生かして、画像診断で地域医療に貢献できればと考えております。

放射線治療部門では、疼痛などの症状緩和を含めた入院での加療についても地域医療連携部を介して月～金曜日で毎日対応しております。受診に至らないような相談的な内容でございましたも、いつでもお気軽にお電話などでご連絡ください。

核医学部門では、骨シンチグラフィを始めとして、認知症やパーキンソン病の診断に有用な脳血流SPECTやドーパミントランスポータシンチグラフィ(DaTScan)などの核医学検査も随時行っております。地域医療連携部にご連絡くだされば予約対応させていただきます。

■核医学症例数 (2023年度)

部 位	件数
骨・腫瘍	300
頭部	119
頸部	15
心筋	100
腎	3
副腎	1
腹部	2
センチネル	126
治療	4
合計	670

■放射線治療症例数(2023年度)

症 例	件数
乳癌	82
脳腫瘍	13
肺癌	9
食道癌	3
前立腺癌	11
膀胱癌	6
骨腫瘍	59
その他	9
合計	192

■IVR症例数 (2023年度)

手 技	件数
肝動脈化学塞栓療法	45
門亢症による静脈瘤・肝性脳症	6
骨盤動注リザーバー	5
緊急止血術など(救急科と合同)	63
透析シャント狭窄・閉塞	30
下肢閉塞性動脈硬化症(循環器と合同)	21
CVポート/CV・PICC・FDLカテーテル	128
IVCフィルター留置・抜去	3
その他の血管内治療	4
非血管系(ドレナージ・生検・リンパ管造影)	14
合計	319

スタッフ紹介

酒井 英郎 昭和61年卒

副院長(医療連携・医療情報・医療安全担当) 兼部長(緩和医療担当)・放射線科・IVR科部長・緩和ケア内科部長

日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

日本医療情報学会 医療情報技師

日本医学放射線学会・日本腫瘍放射線学会 放射線治療専門医・指導医(共同認定)

日本核医学会・PET核医学認定医・核医学専門医・指導医

日本呼吸器内視鏡学会 気管支鏡専門医

卒後臨床研修指導医

医学博士

伊崎 健太 平成9年卒

放射線科・IVR科部長

日本医学放射線学会 放射線診断専門医・研修指導者

日本インターベンショナルラジオロジー学会 専門医

卒後臨床研修指導医

医学博士

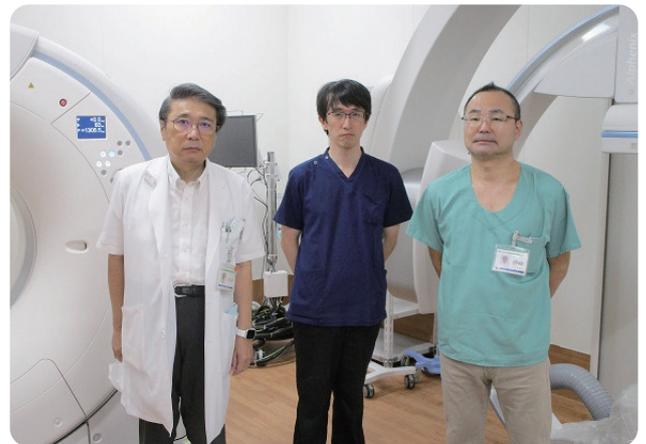
三田 裕樹 平成21年卒

放射線科・IVR科医長

日本医学放射線学会 放射線診断専門医・研修指導者

検診マンモグラフィ読影認定医

卒後臨床研修指導医



形成外科

形成外科部長 櫻井 敦

～慢性創傷とバイオフィルム～

今回はなかなか治らないキズ（慢性創傷）についてお話をさせていただきます。

慢性（難治性）創傷とは？

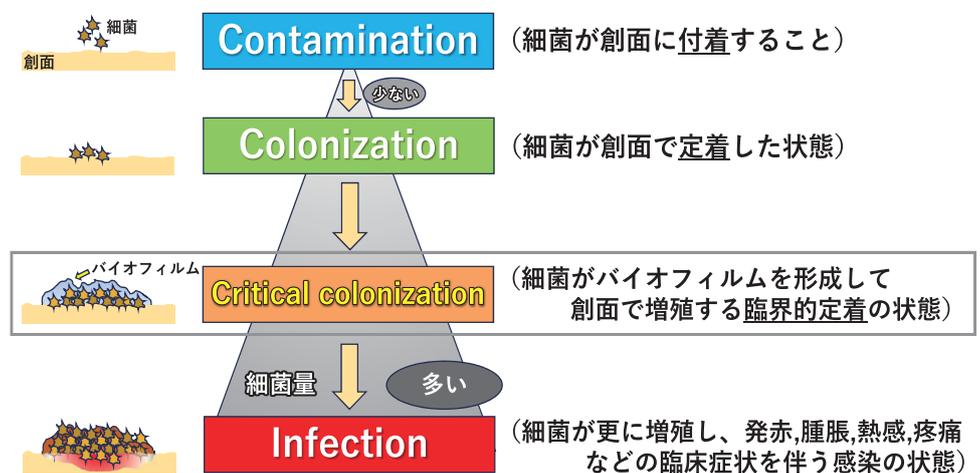
「慢性創傷」は基礎疾患や局所の要因などがあり、創傷治癒が遷延している創傷です。糖尿病性壊疽、重症虚血肢、褥瘡などがあり、治癒に4週間以上かかることが多いとされています。治療の際には基礎疾患や局所の要因に対処することは勿論ですが、慢性創傷の治癒を阻害している要因として、近年注目されているのがバイオフィルムの存在です。

バイオフィルムって何？

バイオフィルムとは細菌が菌体の表面に多糖体、蛋白質からなる粘液状物質を産生し、それに覆われてコロニー形成したものです。これらが増殖し集合体として創面表層に固着すると、宿主の免疫応答に抵抗性を示し、抗菌薬や外用剤の作用を阻害して創傷治癒を遷延させます。この状態をクリティカルコロナイゼーション（臨界的定着）といい、発赤、腫脹、熱感、疼痛

といった、明らかな感染の兆候を示さないが治癒を遷延させる、感染の一手手前の状態です（図1）。バイオフィルムは日常生活において、台所の排水溝にあるヌメリとして認識されますが、創傷表面においてはわかりにくく、これを放置した場合、細菌数は徐々に増加し感染に至ります。

<クリティカルコロナイゼーションとは>（図1）



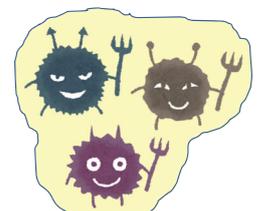
創面における感染とは？

創面において感染が成立するためには、組織1gに対して細菌が10万個以上増殖する必要があります。一方、血腫や壊死組織などが創面に存在すると、細菌数はわずか200個で感染が成立するといわれています。よって活性のない組織を早期に取り除くことは、感染を防ぐ意味でも重要となります。壊死組織や異物、細菌感染巣を除去して創面を清浄化する治療行為をデブリードマンといいます。メスや剪刀、鋭匙などがよく用いられます。

日々の処置が重要！

バイオフィルムをデブリードマンで除去しても、そのままにしておくと24～48時間経過すれば再形成してしまいます。よって、創面の清浄化を保つには定期的なデブリードマン、洗浄をおこない、抗菌性のある外用剤（ヨード製剤、ゲーベンクリームなど）を用いた管理をすることで、創面に細菌を増やさないこと（感染をおこさないこと）が重要となります。

*なかなか治らないキズにはバイオフィルムが育っているかもしれません。
慢性創傷や、デブリードマンでお悩みの場合には形成外科へご相談ください。



総合内科

総合内科主任部長 **中村 幸子**

その特色と本年度の総合内科

総合内科は、内科の一部門として、発熱などの一般的な内科的症状のある患者さんへの救急対応、内科のどの診療科に紹介すればよいかわからない患者さんの窓口としての機能、複数の内科疾患を持つ患者さんへの対応をしています。

当院の内科は、消化器、循環器、糖尿病・内分泌、腎臓、神経、リウマチ・膠原病、緩和と専門科が分かれており、より専門性の高い治療や検査を必要とする際には、専門医と連携し、適切な診断、治療を行います。（図1）

（図1）



地域医療機関の先生方へ

内科の各専門領域にあてはまらず、一般内科的な診療を希望される症例であれば、総合内科にご紹介ください。初診予約を頂き経過を教えていただければと、患者さんをお待たせすることなくスムーズに診療できますので、よろしくお願いします。一般内科領域での急な病状悪化や緊急入院などには、できるだけ対応させていただきますので、ご連絡頂ければと存じます。病状が安定すれば、引き続き先生方で継続御加療をお願いすることも多く、よろしくお願い致します。

スタッフ

中村 幸子	平成14年卒
大北 弘幸	平成17年卒
藤田 泰功	平成23年卒
石田 育大	平成24年卒
山室 敢	平成31年卒





検査部



臨床検査は病気の診断・治療方針の決定や治療効果判定などに必要不可欠な手段です。検査部では、正確で迅速な検査結果報告に務め、診療に役立つ検査情報の提供を行っています。

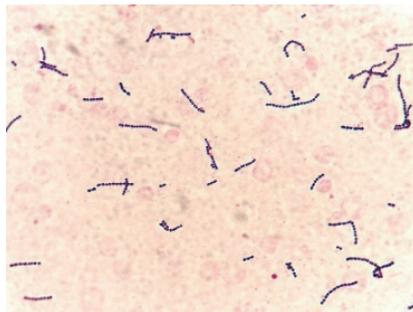
微生物検査室の紹介

微生物検査室では感染症の診断・治療のため、微生物を特定し、薬剤感受性結果から適切な抗菌薬情報を提供しています。また、院内感染情報の発信源であることから、院内における分離菌情報を正確に把握し、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）や院内感染対策チーム（ICT）と連携を保ちながら抗菌薬の適正使用や院内感染防止にも取り組んでいます。

通常の一般細菌では、検体提出から培養同定・薬剤感受性に至る最終報告までに、おおよそ3～4日要します。迅速に起炎菌を推定・特定するために、グラム染色の中間報告や全自動遺伝子解析装置を活用した核酸同定を行っています。

●塗抹検査（グラム染色）

グラム染色では細菌の形態や配列を決定することができるため、ある程度の菌種を推定することができます。



グラム陽性：連鎖球菌



グラム陰性：大腸菌

●全自動遺伝子解析装置（Film Array）の活用

マルチプレックスPCR法を採用し、専用の試薬を用いてグラム陽性菌、グラム陰性菌、酵母様真菌、ウイルスや薬剤耐性遺伝子などの核酸同定を同時に行うことができます。



全自動遺伝子解析装置



Film Array検査パネル





県立加古川医療センター外来診療表



令和6年11月1日(金)～

		月	火	水	木	金
総合内科	初診	石田	大北	藤田	山室	中村
消化器内科	1診	埴本(さかもと)	安富	田村	【尹(ゆん)】(再診のみ)	埴本(さかもと)
	2診	廣畑	森口	廣畑	廣畑	安富(午前)
	3診				白川	
循環器内科	1診	福田	担当医(～14時)	岩田	担当医(～14時)	岩田
	2診	【禁煙】			【ペースメーカー】	笠松
脳神経内科	1診	下村	奥田	一角	高原	奥田
	2診		古結(午前)	下村(午後)		一角
糖尿病・内分泌内科	1診	石井	藤田	田守	石田	櫻谷
	2診		後藤	稲山(午前) 櫻谷(午後)		稲山(午前) 前田(午後)
緩和ケア内科	入棟面談	担当医		担当医		担当医
	サポーターケア外来 (緩和ケア外来)	田中		田中		
生活習慣病		【合田】 糖尿病・肥満	【戒谷(えびすたに)】(午前) 【坂田】(午後) 糖尿病・肥満	【合田】 糖尿病・肥満	【西山】 糖尿病・肥満	担当医(午前)
		【福田】 禁煙(午後)	装具外来			
リウマチ科	1診	中川	塩澤	塩澤	原井川	中川
	2診	田中	上藤	青崎	田中	天野
	3診	西田	吉原	吉原	吉原	担当医
	4診	村田	西田	村田	村田	担当医
	5診	天野		天野		
腎臓内科	1診	午後	加藤		加藤(1,3,5週) 北浦(2,4週)	山本(午前)
外科・消化器外科	1診	高瀬	川嶋	小林	担当医	高瀬
	2診	中川	谷川	門馬(もんま)		中山
心臓血管外科			担当医			担当医(午後)
脳神経外科	1診	担当医	荒井	森下	担当医	荒井
	2診		松木	荒井		松木
乳腺外科	1診	石川	石川		石川	担当医
	2診	小林	担当医		小林	
整形外科	初診 1診	青木	上藤	高山	青木	中川
	初診 2診	高原		北山	神村	
	骨粗鬆症	午後	【上藤】		【北山】	
形成外科	1診	櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2診	松葉		松葉	松葉	松葉
	3診	【金山】		【金山】	【金山】	【金山】
皮膚科	初診/予診	小猿	永松	廣田	山田	小猿
	1診	山田(午前)	川田	川田	担当医	川田
	2診	永松(午前)	廣田	永松	廣田	山田
眼科	1診	薄木(午後)	薄木			薄木
	2診	徳川	徳川	徳川		徳川(第3)
	3診	秋田(第2・4)				
泌尿器科	1診	担当医	金	田中	担当医	田中
	2診		大場			大場
放射線科	(IVR)	担当医		担当医		担当医
	(治療)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

予約受付時間 平日 9:00～18:30 土曜日 9:00～11:30(祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※【 】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

お願い 患者さんの待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。
インターネットで初診予約を行う場合は、登録医の登録をお願いします。

～地域医療連携部よりお知らせ～

11月23日(祝) 14時～16時
SHOWAグループ市民会館(加古川市民会館)にて県かこ県民フォーラム
“いつまでも自分らしい人生を歩むために”開催
事前申込み不要：参加無料